

1. 単元名 だいすき！山辺町！～町たんけんでぼくたち・わたしたちの山辺町はっ見！～

2. 単元の目標

- ・探検やインタビュー活動などを通して、地域の人々や建物、出来事などと自分のくらしとのつながりをとらえることができる。 (知識・技能)
- ・普段の生活経験などを思い出しながら探検をして新たな発見をしたり、そこで出会った人々の仕事や思いに触れたりすることで、自分たちのくらしと地域とのつながりについて考えることができる。 (思考・判断・表現)
- ・自分たちの地域の人々や建物、出来事に興味をもちながら探検をしたり、地域の人々の話を積極的に聞こうとしたりしながら、自分たちのくらしと地域のつながりをとらえようとするすることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、自分たちが住んでいる山形県山辺町、その中でも特に、山辺小学区を扱う。

山辺町とは、山形県の県庁所在地である山形市と、山形県の最上川の支流である須川をはさんで西側に隣接する町である。その須川周辺では古くからニットやカーペットなどの繊維産業が盛んである。川から離れた地域では、農業が盛んであり、米やさくらんぼ、リンゴなどを栽培している。さらには、山の奥の集落ではりんどうやわれもこうなどといった花卉の栽培や、山から湧くきれいな水を活かしてわさびの栽培も盛んである。豊かな自然に囲まれている町である。

一方で、子どもたちが住む地区は、山辺地区と呼ばれ、ショッピングセンターや商店街があったり、住宅が立ち並んでいたりと、古くからある寺社があったり、電車の駅があったりする地域である。山辺町の中では、比較的人口が多く、前述のような建物・施設も多いため、山辺町の中心街と言える地域である。

この地域の人々の暮らしを見てみると、地域のつながりが比較的強いように感じられる。祖父母世代・父母世代も山辺町または山野辺地区の出身の方が多く、昔からの顔なじみであることがつながりの強さの要因の一つになっていると捉えている。

このようなつながりは、子どもたちがこの町をより好きになり、ひいては「この町をよりよくしていくためにはどうしたらよいか」と、自分事として考えて生きていくための大きな切り口になると考えられる。地域の「人」を中心に、「もの・こと」に触れることで、子どもたちはより地域を好きになり、愛着を持てるようになるのだと考える。

(2) 児童観

本学級の児童たちは、相手のことを思いやったり、互いに支えあったりするなど、人とのつながりを大切にできる児童が多い。春に行った、「1年生のために学校探検をしよう」では、入学したばかりの一年生のことを考えながら、探検のためのカードやクイズ、プレゼントを準備することができていた。また、探検当日は、「どこに行きたい?」「ここは気を付けてね!」などと声をかけながら1年生とともに探検を行うことができた。この経験が、周りの人を思いやって行動することにつながっていると考える。

翻って、本学級の子どもたちは、ほとんどの子が山辺町で生まれて生活している。1名、昨年度にベトナムから帰国してきた児童もいるが、父親が山辺町出身ということもあり、山辺町での生活にもなじめている。子どもたちの会話を聞いたり、子ども達に話を聞いたりすると、「昨日、〇〇に行ったよ」「△△くんの家が近くて、よく遊びに行くんだ」などといった話が出てくる。子どもたちにとって、山辺町・山辺地区と自分たちの暮らしとのつながりが芽生えていることがうかがえる。

本単元では、このようなつながりの芽を活かし、さらに視野を広げ、これまで知らなかった場所や、知っている場所でも知らなかったこと、働いている人の様子などに着目して、さらに山辺町のことを好きになってほしい。そして、それがSDGs・ESDを学ぶための素地となるようにしたい。

(3) 指導観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）の生活科の内容(3)「地域と生活」及び(8)「生活や出来事の伝えあい」を踏まえて設定した単元である。

上記の教材観・指導観を踏まえた上で、この単元では特に、これまでの子どもたちの生活経験を活かしながら、さらに山辺町・山辺地区の「人・もの・こと」に触れ、これまでよりも山辺町・山辺地区のことを広く・深く知ること、愛着をもつことをねらっていきたい。愛着を持つことにより、今後、様々な学習で持続可能な社会を創り上げるためにどうするべきか、という視点で学びを進めていき際に、「自分たちなら、自分たちが住む山辺町をどうしていこうか」と、主体的に考えることができるようにするための素地になると考えるからである。

そのためにはまず、子どもたちの「山辺町について知っていること」を出し、山辺町への興味関心を思い起こしたい。その上で、「山辺町にはどのようなものがあるのかな?」という視点で探検に行き、これまでよりもさらに「広く」山辺町・山辺地区のことを知ることにつなげたい。その上で、自分自身がさらに気になったところへ探検に行き、そこで働く人を中心に交流をし、さらに「深く」つながることができるようにする。そのようにしていくことで、子どもたちがさらに山辺町・山辺地区に愛着をもてるようにしたい。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性…自分たちが住む山辺町・山辺地区と自分たちのくらしは、人・もの・ことを通してつながっている。

連携性…自分たちが住む山辺町・山辺地区の人々はみんなが協力して、自分たちが住みやすい山辺町・山辺地区をつくっている。

・ 本学習を通して育てたいE S Dの資質・能力

物事を総合的・構造的にとらえる力（システムズシンキング）

町探検や町の人へのインタビューの活動を通して、自分たちのくらしと山辺町・山辺地区の人・もの・ことは密接にかかわっているということに気づくことができる。

コミュニケーション能力

町の人へのインタビュー活動を通して、疑問をもったり、その疑問を相手にたずねたり、相手の話をしっかり 聴く力をつけたり、相手の話を受け止めることで自分の周りの人・もの・こととのつながりを認識することができる

・ 本学習で変容を促すE S Dの価値観

世代内の公正

自分たちの周りの人・もの・ことが自分たちのくらしをよりよくしてくれていることに気づき、自分たちもそこにかかわっていることに気づく。

幸福感の重視

自分たちの身の回りの人・もの・ことが町を豊かにしてくれていることに気づき、山辺町・山辺地区のことがもっと好きになる。

・ 達成が期待されるSDG s

1 1 住み続けられるまちづくりを

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①町探検を通して、山辺町・山辺地区の人・もの・ことでこれまで知らなかったことを知ることができる。	①町探検やインタビューを行うとき、これまでの自分の知識や経験をもとにさらに山辺町・山辺地区のことを知ろうとしている。	①これまでの生活経験だけではわからない、山辺町・山辺地区の人・もの・ことを知りたいと思いながら探検やインタビューをしている。
②町の人へインタビューをすることができる。	②見たことや聞いたことを通して、山辺町・山辺地区と自分たちの暮らしとのつながりについて考えようとしている。	②探検やインタビューを通して、山辺町・山辺地区の人・もの・ことと新たにつながろうとしている。
③見たり、聞いたりしたことを言葉や図、絵などを用いてまとめることができる。	③学んだことをポスターにし、地域の人に紹介している。	

5. 単元の指導計画（全12時間）

主な学習活動	○学習への支援	評価（△） 備考（・）
<p>1 山辺町・山辺地区について知っていることを挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の近くには中央公民館があるよ。 ・菊屋さんでよくお菓子をかうよ。 ・もっと、色々なお店や建物があるはずだな。探検に行きたいな。 	<p>○山辺小学校の写真を中心に据えたワークシートを用意し、自分が知っている場所などを書きこむことで生活経験を思い起こすことができるようにする。</p>	<p>ウ① (主体的)</p>
<p>2 1回目の探検の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校から見て、色々な方向にいきたいな。どんな建物があるかな。 <p>3 1回目の町探検に出かける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央公園では、いつも遊んでいる遊具だけじゃなく、体育館もあったね。 ・知らない場所がたくさんあったな。 <p>4 探検で見つけたことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明石屋さんで、お店の人が出てきてくれたね。優しそうだったな。 	<p>○今まで気づけなかったところを見つけられるよう、声をかける。</p> <p>○各地区の違いを比べるよう、声をかける。</p> <p>○ワークシートを用意し、見つけた場所を文章や絵でメモできるようにする。</p> <p>○探検して発見したことを付箋に書かせて、それを各探検場所のプリントに貼ることで、クラス全体で共有できるようにする。</p>	<p>ア① (知・技)</p> <p>イ①② (思・判・表)</p> <p>ウ①② (主体的)</p>
<p>5 2回目の探検の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今度は、もっとお店の人の話を聞いたり、中を詳しく見学したりしたいな。 <p>6 見学で聞きたいことをまとめたり、インタビューの練習をしたりする。</p> <p>7 2回目の探検に行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きくやさんでお菓子作りで気を付けていることは何かな？ ・お店の人となかよくなれた気がするな。 	<p>○1回目の探検で発見した場所・人などをもとに、1人1人に見学場所を決めさせる。</p> <p>○インタビューのやり方だけでなく、お願いの仕方やお礼の仕方等も、相手に伝わる言葉の使い方の工夫を考えさせたり、指導したりする。</p>	<p>ア② (知・技)</p> <p>イ①② (思・判・表)</p> <p>ウ①② (主体的)</p>
<p>8 まとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知らないことをたくさん教えてもらえて良かったな。 ・山辺の人は、優しい人が多いな。 <p>9 見学先の人をお招きし、まとめたものを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町の人にお礼ができて良かったな。 ・山辺町って、やっぱり素敵な町だな。 	<p>○写真などを使って大判用紙にポスターのような形でまとめさせる。</p> <p>○まとめる際に、見学先へのお礼の意味も込めてまとめることを促す。</p>	<p>ア③ (知・技)</p> <p>イ①② (思・判・表)</p> <p>ウ①② (主体的)</p>

6. 実践を終えて

本単元を、他の単元等も間に挟みながらではあるが、6月から10月の期間で実践することができた。その中で、様々な成果や課題が出たが、特にそれぞれ2点ずつに絞って考察していく。

成果について、まず1点目は、子どもたちが意欲的に取り組むことができ、自分たちの住む山辺町のことについてより一層興味関心をもつことができていた、ということである。子どもたちは、探検を通して、特に町・地域の人との交流を深めることができていた。1回目の探検中に、町の文房具屋さんである明石屋さんの前を通ろうとしたときである。その店先に、お店の人がたまたま出てきた。すると、子どもの中から、「あ、いつもの明石屋おばちゃんだ!」「ここ、とても多くの鉛筆や消しゴムがあるんだよ!」という声が上がった。その店を知らない子どもたちも「え。そうなんだ!」「こんど、行ってみたいな。」と話していた。子どもたちの間で、探検前に町・地域への愛着が深まったり、広がったりした瞬間であったと感じた。

2点目は、探検を通して新たな場所を発見したり、町の人へのインタビュー活動を行ったりすることで、より山辺町・山辺地域に愛着をもつことができた。インタビューをした後に、「菊屋のおじさん、とてもやさしかったよ!」「今まで知らないことを教えてもらえて、とっても嬉しかったなあ。」という感想を話し児童が多くいた。1つ目の成果の考察の時点よりもさらに地域の人との関係性は深まったと考える。実際に、授業外の時間でも、「家族とお出かけしたときに、この前探検に行ったお店にまた行ってきたよ!」というように、地域の人とのつながりをもっていることを教えてくれた児童もいた。これもまた、地域への愛着を深めている姿であると考えられる。

次に、課題について2点考察していく。

まず、子どもの気づきの質をより上げたい、ということだ。今回は、人や建物中心の気づきだった。3年生以降の学習でいうと、社会的な見方を中心に取り扱った。だが、もっと、植物や動物など、3年生以降の理科などにつながるようなものも気づかせていくべきであった。それがすなわち、自分事として環境の課題に気づき、学んでいくことにつながると考えた。また、そこで得た気づきを活かして、植物や動物のお世話の学習を通して、それらとのつながりを深めることが、愛着をもって植物や動物と接するという心も育てることができるのではないか。それが、ひいては、自分の身の回りに関心を持ち、愛着をもつことにつながる。環境の課題にも自分事として取り組むこと、周囲への関心・愛着をより深めることができるという点で、教師側の気づかせ方について今後改善していきたい。

課題の2点目は、まとめの活動をダイナミックにしたかったということである。まとめたものを、訪問先の方や保護者の方に発表するなどの機会をしっかりと設けるべきであった。これについては、当初の計画の甘さが出たように思う。子どものゴールの姿はもちろん、活動の終着点をより明確にすべきであった。また、協力してくださる方々にも単元が始まる前に活動の概要をより丁寧に説明し、最後の子どもとの交流まで理解をしていただくようにするべきであった。このような活動をすることで、地域の方との交流をさらに深めることができ、ひいては愛着をより確かにできるのだと思う。

このような成果や課題はあるが、総じて見たときに、本単元の学習を通して、子どもたちは自分たちが住む山辺町・山辺地域に愛着をもててきたと思う。この愛着を足掛けとして、来年度以降のESDの学習で地域学習を行う際には地域のことをより自分事として学ぶことにつなげていきたい。

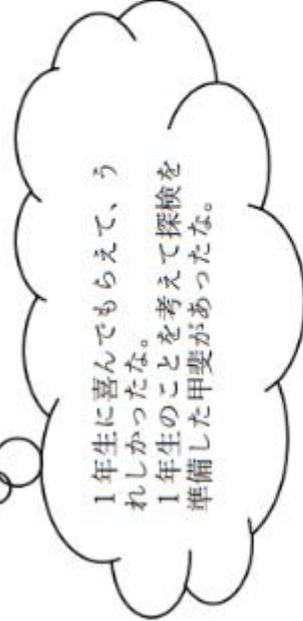
現在の学年終了時に目指す姿

山辺町・山辺地域のことをより広く・より深く学ぶことで、自分たちが住む地域をより好きになり、身の回りのことについて自分事としてかかわり、考えられるようになっていく子ども。

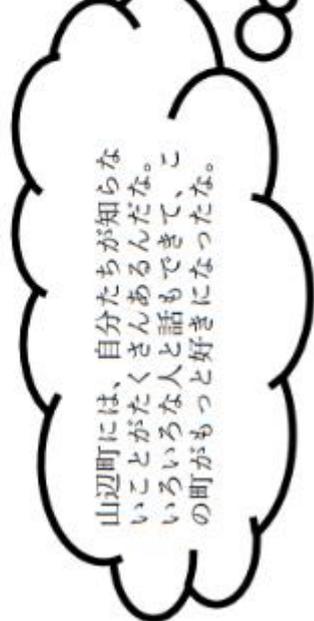


生活科「1年生と学校探検」

4月に入学してきた1年生に、学校のことをよく知ってもらったために2年生が中心となり学校探検を行う。「どうすると、1年生が楽しんでくれるかな？」などと考えることを通して、相手のことを考え、人と人とのつながりを感じられるようにしたい。



1年生に喜んでもらえて、うれしかったな。
1年生のことを考えて探検を準備した甲斐があったな。



山辺町には、自分たちが知らないことがたくさんあるんだな。いろいろな人と話もできて、この町がもっと好きになったな。

生活科「だいすき！山辺町！」

～町たんけんてほくたちわしたしたちの山辺町はっ見！～

○主に養いたい ESD の資質・能力
物事を総合的・構造的にとらえる力

町探検や町の人へのインタビューの活動を通して、自分たちのくらしと山辺町・山辺地区の人・もの・ことは密接にかかわっているということに気づくことができる。

コミュニケーション能力

町の人へのインタビュー活動を通して、疑問をもったり、その疑問を相手にたずねたり、相手の話をしっかりと聴く力をつけたり、相手の話を受け止めることで自分の周りの人・もの・こととのつながりを認識することができる

○主に育てたい ESD の価値観

世代内の公正

自分たちの周りの人・もの・ことが自分たちのくらしをよりよくしてくれていることに気づき、自分たちもそこにかかわっていることに気づく。

生活科「動物となかよになろう」
生活科「植物となかよになろう」
身の回りの動物や植物の世話をすることで、自分の身の回りにあるものに関心を向け、愛着をもてるようにしていきたい。それこの後、地域の人々へ愛着をもち、山辺町・山辺地域に愛着をもつことにつなげていきたい。



育てているカブトムシ、かわいいな。大切にしたいな。

国語科「メモを取るとき」

探検・インタビューを通して、お店の人の思いや願いをしっかりと受け止め、そのことを忘れないように、メモをとることを学ぶ。そのことを通して、山辺町・山辺地域のことをより深く心に刻むことができるようにしたい。



菊屋さんが、「お客さんの喜ぶ姿のためにお菓子を作る」ということが印象に残ったな。